

令和4年

第2回町議会臨時会

行政報告

(令和4年4月28日)

幕別町長 飯田 晴義

お許しをいただきましたので、4点につきまして行政報告をさせていただきます。

(知床観光船遭難事故について)

はじめに、知床観光船遭難事故について申し上げます。

4月23日に知床半島の沖合で乗客・乗員26人が乗った観光船が遭難した事故につきまして、本町に在住の小学生とその親が含まれていることが確認されました。

第1管区海上保安本部の発表では、26人のうち現在発見された方が11人、このうち氏名等身元が判明している方が6人となっており、この中に本町在住の2人は含まれておりませんことから、一刻も早い救助を切に願うものであります。

(高木菜那さん、高木美帆さんオンライン町民報告会について)

次に、高木菜那さん、高木美帆さんオンライン町民報告会について申し上げます。

本年2月に開催されました北京2022オリンピック競技大会において、本町出身の高木菜那さん、美帆さんのお二人が前回の平昌大会に引き続き、姉妹そろってメダルを獲得いたしました。

その偉大な功績を称えるとともに、お二人からいただいた勇気、希望に対し町を挙げてねぎらいと感謝の気持ちを表すべく、今月17日、百年記念ホールにおいて、町及び「北京2022オリンピック出場選手を応援する会実行委員会」主催によるオンライン町民報告会を開催いたしました。

報告会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインによるライブ配信としたところではありますが、その中でも地元の小・中学生との交流を希望されたお二人の意向を踏まえ、当日会場に、スピードスケート少年団やスピードスケート部に在籍する児童生徒を中心に、町内の小・中学生170名を招待し、特別町民栄誉賞の表彰及びアトラクションの二部構成で開催したところでもあります。

このうち、特別町民栄誉賞は、今月5日に開催した、私のほか、副町長、教育長、

議長及び副議長をもって組織する「幕別町特別町民栄誉賞選考委員会」の議を経て、贈呈することを決定したところであり、当日会場において、記念品として表彰盾のほか、1人当たり100万円と副賞として毎月1万円相当の本町特産品1年分の目録を贈呈したところであります。

表彰後に行われたアトラクションでは、幕別町出身のオリンピック山本幸平さん、桑井亜乃さん、福島千里さんのほか、町内全14校の小中学生「幕別キッズ」からビデオメッセージをいただき、オリンピックからは「今度幕別のイベントで会うのが楽しみです」、幕別キッズからは「たくさんの感動をありがとう」などのメッセージが寄せられました。

また、お二人の母校であります帯広南商業高等学校書道部の皆さんが書道パフォーマンスを披露し、作品に書かれた「どんな時でも前を向く 誰かができるなら自分もできる その真剣な姿は私たちの憧れと誇りです 勇気と感動をありがとう」の言葉と迫力ある筆の運びにお二人も感動され、最後にそれぞれ筆字でサインを入れ会場を沸かせました。

さらに、「ななちゃん、みほちゃん、教えて！幕別キッズ質問コーナー！」では、町内の各小中学校の代表者が、菜那さん、美帆さんにスケートやスポーツに関することだけでなく、「得意料理はなんですか」や「人生で一番恥ずかしかったことはなんですか」など意表を突く質問で会場の笑いを誘う場面もあり、短い時間ではありましたが楽しいひと時を過ごさせていただきました。

最後の長野五輪金メダリストの清水宏保さんを進行役に迎えたトークショーでは、北京オリンピックの選手村での様子やスケートを練習する子供たちへのアドバイスのほか、お二人の今後の活動についてなども話していただきました。

今回、コロナ禍におきましても、オンライン町民報告会を開催できたのは、多くの町民の皆様の温かい声援はもとより、「北京2022オリンピック出場選手を応援する会実行委員会」をはじめ、関係機関の皆様方の多大なご協力があったることと心から感謝とお礼を申し上げる次第であります。

そして、何よりも、私たちに生涯忘れることのできない喜び、感動、勇気を与えていただきました高木菜那さん、美帆さんに対しまして、改めて深く感謝を申し上げますとともに、今後の更なる活躍を期待するところであります。

(アイヌ施策推進交付金事業について)

次に、アイヌ施策推進交付金事業についてについて申し上げます。

アイヌ文化等の次世代への継承を確実なものとするとともに、地域に存在するアイヌ文化等を発信し、アイヌ関連の交流施設を活性化させ、魅力ある地域社会を形成することを目的とした「幕別町アイヌ施策推進地域計画」が、令和4年4月から9年3月までの5年間を計画期間として、本年3月10日付けで内閣府から認定されました。

事業計画の概要を申し上げますと、大きく3点あり、1点目は、かつての幕別町や十勝で行われていたアイヌの生活様式、舞踊等についての聞き取り調査や国内主要博物館の収蔵資料の調査に基づき基礎データを整理し、伝承活動や学校への出前授業などにつなげる文化振興事業であります。

2点目は、蝦夷文化考古館収蔵資料を中心としたアイヌ文化に関する展示会の開催による様々な年齢層への情報発信により、アイヌ文化に触れアイヌの歴史や文化の理解を深める地域・産業振興事業であり、3点目は、千住生活館の建て替えと蝦夷文化考古館の保存改修、展示・収蔵資料の修復などのコミュニティー活動支援事業であります。

事業規模は、計画段階の概算ではありますが、2施設の建て替え、展示・収蔵品の修復等で約10億円としており、このうち基本計画策定業務等令和4年度分の関連する予算について本臨時会に提案させていただいたところであります。

なお、事業の推進に当たりましては、幕別アイヌ協会、マクンベツアイヌ文化伝承保存会や地域住民をはじめ、広く道内のアイヌ関係団体等との連携・協力をいただきながら、十勝におけるアイヌ文化の振興、普及啓発を担う事業となるよう進めてまいります。

(本町における新型コロナウイルス感染症の感染状況等について)

次に、本町における新型コロナウイルス感染症の感染状況等について申し上げます。

北海道では、1月27日から適用となっていたまん延防止等重点措置が3月21日をもって解除されたものの、感染力が強いとされている「BA.2」への置き換わりが急速に進んでおり、4月20日に1日の新規感染者数が約2か月ぶりに3,000人を超えるなど感染拡大が収まらない状況にあります。

十勝管内においても、3月24日以降一日の新規感染者数が100人を超える日が続いており、4月20日には過去最多の356人、また、22日には4月の月別新規感染者数が3,766人となり、本年2月の3,650人を上回り過去最多を更新したところであります。

こうした中、本町においても新規感染者数が増加しており、3月の第1回定例会における行政報告以降、3月2日から昨日現在までの状況を申し上げますと、新規感染者数は455人、特に10代以下の若年層の感染が増加している傾向にあり、町内の小中学校においては、これまで小学校7校で児童43名、教職員3名、中学校5校で生徒27名、教職員3名の感染が確認されたところであります。

この間、陽性者が確認された小中学校においては、感染状況を踏まえ、学級閉鎖等の措置をとるとともに出席停止の児童生徒に対しては、タブレット端末を活用し、健康観察やオンライン学習を実施するなど学びの保障に努めてきたところであり、新年度からは、北海道教育庁の通知に基づき、同一の学級において複数の感染者が確認された場合などに限り、学級閉鎖の措置をとるなど、更なる学びの保障と集団感染の発生防止に努めているところであります。

また、保育所、学童保育所においても、昨日までに町立保育所3か所で児童33名、職員9名、へき地保育所1か所で児童1名、学童保育所4か所で児童8名の感染が確認され、町立保育所3所において休所の措置をとったほか、役場本庁舎等においても感染者が確認されましたが、いずれも速やかに職場等の消毒を行い、通常どおり業務

を行っているところであります。

次に、新型コロナウイルスワクチンの3回目の接種状況についてであります。昨日現在、65歳以上の高齢者で接種を終えられた方が8,223人で、2回目の接種を終えられた方に対する接種率は92.9%、64歳以下の方は、6,990人で、56.3%、合わせて15,213人で、71.5%となっております。

新型コロナウイルスワクチンの3回目の追加接種については、感染リスクや重症化リスクの低減に効果的であることから、早期に接種を終えることができるよう取り組んでまいりましたが、65歳以上の高齢者につきましては希望される方がほぼ接種を完了したと考えております。

また、5歳から11歳の方へのワクチン接種につきましては、3月15日から町内の小児科で接種を開始しており、昨日現在で対象者1,570人に対して1回目接種を終えられた方が268人で、接種率が17.1%、このうち2回目の接種を終えられた方が176人となっております。

さらに3月25日付けで厚生労働大臣通知の一部が改正され、12歳から17歳の方に対する3回目の追加接種が可能となりましたことから、4月11日に17歳の方に対し接種券等を送付し、翌12日以降、町内の医療機関での個別接種を実施しており、16歳以下の方についても4月25日以降順次、接種券等を送付しているところであります。

今後におきましても、引き続き希望される全ての方が、安心して接種を受けられるよう正確な情報の提供に努めてまいります。

以上、行政報告とさせていただきます。